真岡市行政評価シ 評価対象年度		、 成27 年度		事務事	業マネージメ	ントシート			作瓦	党日 平	☑成28 年 0	5月11日		
事務事業名	まちた	なか元気会議	義参画事業		担当	建設部 都市計画課 計画係								
政策名	Е	地域と産業	が調和する活力あ	電話番号	0285-83-8152									
施策名	2	商業の振興	Į	□ 実施計画上の	実施計画上の主要事業									
基本事業名							単年度のみ	4						
法令根拠					事業期間	□ ++-RO000 □ 単年度繰返(開始年度 平成11 年度~)								
予算科目	1.一般会計 8.土木費 4.都市			4.都市計画費	1.都市計画総務費	中本机的	=		复数年度(中⁄2	年度)		
事業概要	都市の発展に伴い、都市部の商業施設等が郊外に立地する一方、中心市街地が寂れ空洞化が見られる。 このような状況にある自治体が、国の支援を受け平成12年3月中心市街地活性化基本計画を策定し、策定自治体への栃木県からの呼びかけに応えて、中心市街地活性化推進協議会を組織し、中心市街地の整備と活性化に結びつく施策として調査研究活動や普及啓発活動の展開を目的としている。 平成20年度より協議会の名称を「まちなか元気会議」に変更した。 会員自治体・宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、日光市、小山市、真岡市、大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、下野市、芳賀町、高根沢町の16市町で構成 事務局:栃木県県土整備部都市計画課													
1. 現状把握の	部(1)	事務事業の	目的と指標											
① 手段(主な活動)					⑤活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移									
27年度実績 総会1回、幹事会(担当者)会議1回、研修会1回・調査研究会2回、先 進地視察1回(茨城県石岡市)、講演会1回					名称	単位 2	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(見込)			
					5動回数			10	9	9	7	9		
				d d										
28年度計画														

1. 3	見状扎	巴握の	の部 (1)事務事業の目的。	と指標											
①手	役 (主	な活	動)				⑤活	5動指	標(事務事業の活動量を表す	す指標) の打	隹移					
27年度実績 総会1回、幹事会(担当者)会議1回、研修会1回・調査研究会2回、先 進地視察1回(茨城県石岡市)、講演会1回								名称		単位	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(見込)	
						ア	活動	回数		回	10	9	9	7	9	
							1									
							ゥ									
28年度計画							I									
総会、	、トッ	プセ		幹事会(担当者)会議、 地視察、調査研究・講											-	
予定。	•						オ									
②対	象(誰	É、何	を対象に	しているのか)*人や自	然資源等		6対	寸象指	標(対象の大きさを表す指標	票) の推移						
参加	自治体	Z					ア	÷⇔h⊓ı	<u>名称</u> 自治体会員数		単位	24 年度(実績)	•			28 年度(見込)
							1	>> //µ	日/10 件云县以		市町.	15	15	16	16	16
							ウ									
							エ オ						ļ			
③ 意[図(こ	の事	業によって	て、対象をどう変える	のか)		□ 2				<u> </u> 隻) の推	 移				
				つく調査研究を行う。			名称				単位	24 年度(実績)	25 年度(実績)		27年度(実績)	28 年度(見込)
							ア・中心市街地活性化区域				ha	64	64	64	64	64
							イ 研修調査研究講演会参加者数 ウ 先進地視察の参加者数				<u>\</u>	380 35	333	330	300	320 35
							エ]			
⊕ 4±1	FB / L2	: 1 +	生田 / Lノ	- 井笠〉 に分がつはてる	247		1		果指標(結果の達成度を表す	+145-147-1	H 14					
				立施策) に結びつけるの な街並みの形成を図る			. 0 1	_111770	条指標 (結果の達成度を表) 名称	9 担保 のけ	単位	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(見込)
12-40	70,31	-0213	- (CC)	3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	. 0		ア 良好な市街地形成に対する市民の満足割合 イ ウ			1000	%	81.5	81.7	83.0	80.7	80.7
							1						·····			
											1		1			
							オ	:								
(2) #	総事業	業費の	の推移		単位	24 年度(実		:	25年度(実績)	26 4	年度(実統	責)	27 年度(実績)	28 年度	(見込)
(2) #		П		国庫支出金	千円	24 年度(実		. 0 .	25年度(実績)	26 1	年度(実績	責) 0	27 年度(§	実績) 0	28 年度	(見込)
(2) 絹		П		県支出金	千円 千円	24 年度(実		00	0	26 4	年度(実統	0	27 年度(5	0	28 年度	0
	総事 事 事業費	П		県支出金 地方債	千円 千円 千円	24 年度(実		. 0 .	0 0	26 1	年度(実統	0 0	27 年度(§	0 0 0	28 年度	0 0 0
		費 財源内訳		県支出金	千円 千円	24 年度(実		00	0	26 5	年度(実統	0	27 年度(5	0	28 年度	0
(2) 約 投 入 量		П		県支出金 地方債 その他	千円 千円 千円 千円	24 年度(実		0 . 0 . 0 . 0	0 0 0	26 5	年度(実統	0 0 0	27 年度()	0 0 0	28 年度	0 0 0 0
	事業費	П	事業費	県支出金 地方債 その他 一般財源 計 (A) 議員従事人数	千円 千円 千円 千円 千円 千円	24 年度(実	(議)	0 0 0 0 80 80	0 0 0 0 0 80 80	26 1	年度(実統	0 0 0 0 90 90	27 年度(氢	0 0 0 0 90 90	28 年度	0 0 0 0 90 90
	事業費	П	事業費正規理	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 職員従事人数 べ業務時間	千円 千円 千円 千円 千円 人 時間	24 年度(実	(2) (4)	0 0 0 0 80 80 2 192	0 0 0 0 80 80 2 196	26 3	上 年度(実統 	0 0 0 0 90 90 2 196	27 年度(§	0 0 0 0 90 90 2 196	28 年度	0 0 0 0 90 90 90 2 196
	事業費	財源内訳	事業費正規則	県支出金 地方債 その他 一般財源 管計 (A) 職員従事人数 べ業務時間 +費計 (B)	千円 千円 千円 千円 千円 十円 十円	24 年度(実	2績)	0 0 0 0 80 80	0 0 0 0 80 80 2 196	26 3	年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(引	0 0 0 0 90 90	28 年度	0 0 0 0 90 90
投入量	事業費 人件費	財源内訳	事業費 正規類 延 人件 ・一タルコ	県支出金 地方債 その他 一般財源 詩計 (A) 職員従事人数 べ業務時間 +費計 (B) スト(A)+(B)	千円 千円 千円 千円 千円 人 時間	24 年度(実	2績)	0 0 0 80 80 2 192	0 0 0 0 80 80 2 196	26 3	年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196	27年度(§	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
投入量	事業費 人件費 務	財源内訳	事業費正規則 ・ 人代・・ アルコの環境変	県支出金 地方債 その他 一般財源 語計 (A) 厳員従事人数 べ業務時間 +費計 (B) スト(A)+(B) 化・市民意見等	千円 千円 千円 千円 千円 人 時間 千円		2績)	0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877		年度(実	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(3	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
投入量 (3) ^[4]	事業費人件費事務事務	財源内訳	事業費 正規類 延 人件 ・一タルコ	県支出金 地方債 その他 一般財源 語計 (A) 厳員従事人数 べ業務時間 +費計 (B) スト(A)+(B) 化・市民意見等	千円 千円 千円 千円 千円 人 時間 千円		2績)	0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196		年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(3	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
投入量 (3) 事 (3) のこの しただいつい	事業費 人件費 務 事っろ	財源内訳 「「「「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「」	事業費正規規人代一一タルコの環境関始でで、	県支出金 地方債 その他 一般財源 語計 (A) 厳員従事人数 べ業務時間 +費計 (B) スト(A)+(B) 化・市民意見等	千円 千円 千円 千円 千円 人 時間 千円		2績)	0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877		年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(3	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
投入量 (3) ^事 ①この したも	事業費 人件費 務 事っろ	財源内訳 「「「「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「」	事業費正規規人代一一タルコの環境関始でで、	県支出金 地方債 その他 一般財源 語計 (A) 厳員従事人数 べ業務時間 +費計 (B) スト(A)+(B) 化・市民意見等	千円 千円 千円 千円 千円 人 時間 千円		2績)	0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877		上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(3	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
投入量 (3) ¹ ① こ に し い 開始な	事業費 人件費 務 弱かとだされ	財源内訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業費正規製・人代ータルコの環境を開始を行かっている。	県支出金 地方債 その他 一般財源 計員従事人数 べ業務時間 ・費計 (B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 千円 千円 千円 千円 千円	ため、平成12年3月	は は は ない は は は は は は は は は は は は は は は は	0000000	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度()	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
投入量 (3) ¹ ① こ に し い 開始 。 ② 事 利	事業費 人件費 務 弱からた 第	財源内訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業費正規を入代・一タルコの環境を開始である。	県支出金 地方債 その他 一般財源 計員従事人数 べ業務時間 ・費計 (B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は は は は は は は は は は は は は は は は	0000000	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.		0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(5	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
投入量 (3) ① こと しい開始 ②事況	事業費 人件費 務 事っろれ 事対 かきた 業 第	財源内訳 業 等けどの をきる	事業費 正規 近代 一タルコ変 続何かに であかった。	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は は は は は は は は は は は は は は は は	0000000	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(5	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
(3) ¹ (2) しい開 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	事業費 人件費 務 事っろれ 事対は 事対とに 事対とに	財源内訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事正選規延代力で を何経 を 切り根化期 を がって く はてる	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0000000	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(5	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
(3) ¹ ① こたつい開 事 況 等 いいは	事業費 人件費 務 事っされ	財源内訳 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	事業規延作力でを何経の対象を対します。 実践 関連の はんり	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0000000	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(5	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
(3) ¹ ① こたつい開 事 況 等 いいは	事業費 人件費 務 事っろれ 事対は 事対とに 事対とに	財源内訳 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	事業規延作力でを何経の対象を対します。 実践 関連の はんり	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0 0 0 0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(5	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
(3) ¹ ① こたつい開 事 況 等 いいは	事業費 人件費 務 事っされ	財源内訳 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	事業規延作力でを何経の対象を対します。 実践 関連の はんり	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0 0 0 0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(5	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
(3) ¹ ① こたつい開 事 況 等 いいは	事業費 人件費 務 事っされ	財源内訳 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	事業規延作力でを何経の対象を対します。 実践 関連の はんり	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0 0 0 0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(5	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
(3) ¹ ① こたつ始 事況等るは変	事業費 人件費 務 事っろれ 事対は、年た 業象と 開年た	財源内訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事正 乗類延介 2 を何経。 り根化期で、 は、	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0 0 0 0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(5	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
(3) To たつい 関 事 況等 るは 変 イ 3 c c c c c c c c c c c c c c c c c c	事業費 人件費 務 事かるた 第(かちり の あまがき りゅう かちり かちり かまかる 事対 と 開 まま と 開 また	財源内訳	事正 選親延 何経。 タ環境 始? を何経。 タ環境 始?で く法てるど 対しあて 対ししまて 対しました ア	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0 0 0 0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(5	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
(3) ¹ ① こたつ始 事況等るは変 を 3 こ 関	事業費 人件費 務 あっろた 第(かちつ カ系 事対と、 第 年 た 著 多 と 開 年 た 一	財源内訳	事正 乗類延介 2 を何経。 り根化期で、 は、	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0 0 0 0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(氢	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
投入量 (3) ① しい開 ②状令いいう ② 取業等 こと関業等	事業費 人件費 務 事っろれ 事対は 無年た 別系対 事がとた 業缘と 興年た 羽(者ら)	財源内訳 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	事正 を何経。 り根化期化? に、害なり、 とりをります。 は、 とりをします。 というという は、 とりをします。 というという はいき	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0 0 0 0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(引	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821
投入量 (3) ① しい開 ②状令いいう ② 取業等 こと関業等	事業費 人件費 務 事かるた 第()からつ の系対 望 事者象からに 等象と開作た 粉(そらき	財源内訳 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	事正・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	県支出金 地方債 その他 一般財源 計(A) 議員従事人数 べ業務時間 青費計(B) スト(A)+(B) 化・市民意見等 中心市街地の空洞化	千円 千円 千円 千円 十円 十円 十円 ・ 十円 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ため、平成12年3月	は は は ない は ない は ない は ない は いっぱい はいまいままままままままままままままままままままままままままままままままま	0 0 0 0 0 0 80 80 2 192 807 887	0 0 0 0 80 80 2 196 797 877	5.D.	上年度(実統	0 0 0 0 90 90 2 196 827	27年度(引	0 0 0 0 90 90 2 196 821	28 年度	0 0 0 0 90 90 2 196 821

1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 ①政策体系との整合性 ■結びついている □ 見直し余地がある ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? 空洞化が進む中心市街地の都市施設の整備、関係者の意識の高揚による地域の活性化に結びつく。 ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか? 目的妥当性評価 ②公共関与の妥当性 ■ 妥当である ■ 見直し余地がある ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? 中心市街地の活性化は、市の重要施策事業であるため妥当である。 ・税金を投入して達成する目的か? □ 適切である ③対象と意図の妥当性 □ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある 対象を限定・追加すべきか? ____ 空洞化が進む中心市街地の都市施設整備や関係者意識の高揚による地域の活性化に結びつくため。 ・意図を限定・拡充すべきか? □ 向上余地はない □ 向上余地がある 会の調査研究活動により、関係者及び商店会等関係団体の意識の高揚を図っていくため。 ④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか? ⑤廃止・休止の成果への影響 ■ 影響がない 影響がある ・ 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? 中心市街地の活性化は、市の重要施策事業であるため。 有効性評 ⑥類似事業との統合や連携の可能性 ■ 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) ■ 類似事業はない ・他に、類似の形態の事務事業はないか? ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図る □ 他の事業と統合・連携ができる □ 他の事業と統合・連携できない ことができるか? ⑦事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに事業費を削減できないか? 必要最小限の経費である。 (仕様や工法の適正化、住民の協力など) 効率性評価 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 必要最小限の経費である。 ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど) 9 受益機会・費用負担の適正化余地 □ 公正・公平である □ 見直し余地がある 公平性評価 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? 受益者負担はない。 ・受益者負担が公正・公平になっているか? 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 廃止 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性 □:公平性) □ 統合 □ 継続 コスト 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か?それをどう克服していくか? 低下 4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (1) 1次評価結果の客観性と出来具合 (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🗌 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🗌 適切 🗌 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 □ 適切 □ 見直し余地あり コスト 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 成果 維持 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)